



11 後援会だより

November 2013 Vol. 22

アツく盛り上がる秋忍に

学生会、秋の忍ヶ丘実行委員長
保育科2年 工藤 安里奈

今年の秋の忍ヶ丘祭は、「上昇」を掲げ、学生、職員、おいで下さる皆様、全員楽しめるよう、野外にステージを立てることにしました。

またテーマは、「The Rise in Autumn ～激アツ秋忍丸～」です。秋はさらに上を目指すということで、学生、職員、おいで下さる皆様と一緒にアツく盛り上がる、ということで、このテーマに決定しました。



そして、学生会企画では「のど自慢大会」を行います。ご参加して下さる方の美声が響き渡りますので、楽しみにしてください。

皆様のお越しを、お待ちしております。

平成24年度第三者評価を終えて

学長補佐、音楽科教授 山下 恵子

全ての大学では、大学の教育の質保証のために、文部科学省の認証を受けた評価機関による認証評価を受けることが義務付けられています。この制度が導入された平成17年度に、本学では短期大学基準協会による一巡目の第三者評価を受けました。昨年度は、7年の年月を経て二巡目の第三者評価を受け、適格の認定を頂きました。

第三者評価の準備期間を含めた2年間は、教職員が力を合わせ、評価基準の達成に努めました。これまで以上に「学生を育てる」ということを真剣に考え、論議し、行きつ戻りつしながら教育の質向上を目指しました。

今回の第三者評価の中で最も評価された点は、建学の精神「礼節・勤労」に基づいて2年間で身につけるべきことを明確にし、それを学生の自己評価、就職先評価、卒業生評価、教員による成績評価によって測定し、課題を見つけ、改善に向けて歩んでいる事でした。模索の中で見いだした学習成果の測定方法は、高く評価され、Good Practiceということで2013年8月に京都大学で開催された「高等教育質保証学会第3回大会」の短期大学基準協会の先進的事例として紹介させて頂きました。この学会では、大阪大学、神戸大学などの発表に次いで、「宮崎学園短期大学の自己点検・評価について ～建学の精神「礼節・勤労」に基づいた新たな評価システムの構築～」というタイトルで発表しました。多くの方々から本学の取組を「今後の参考にしたい」と言って頂き、本学の教職員が力を合わせて取り組んできたことが、最先端の試みであったことを認識しました。特に、全学必修科目である「人間の研究I 礼節」「人間の研究II 勤労」は、建学の精神を具現化した科目として、大変注目されました。

本学は、二巡目の第三者評価を通して多くの事を学び、教育の質向上に向け、さらなる一歩を歩み始めました。日々変わりゆく学生の豊かな成長を願い、今後も更に教育を充実させていきたいと思ひます。



夏季オリエンテーションの実施から

学生指導課長 佐藤 芳信

短期大学では夏季休業は2回しかありません。もともと、主役の人たちは「2回しかない」をどう考えるでしょう。学生の中には、2年間しかない学生生活の中に長期の休みがあるのはもったいないという考え方。いや、この期間に普段やることのできない自由な研究や勉強ができてありがたしいという考え方。また、こんなときこそ大いに楽しんでリフレッシュするぞという考え方。いろいろあるでしょう。どの考えにもそれなりの価値があり、それが学生の生き方につながっていることでしょう。

ところで、夏季休業に入る直前に、本学では夏季オリエンテーションを行っております。まず全体会で、学長から学生の自分についての講話があった後、宮崎県警察本部の専門家の方々から、特に女性が夏の時期特有の犯罪から身を守るための方法や、最近話題となっているサイバー犯罪や金銭トラブルの実態などをお話しいただきました。2人組になって実際に護身術の実践練習の時間もありました。みんな真剣な表情で練習に取り組む様子に関心の高さを感じることができました。なお、今年から宮崎県警察と県内の大学・短大との間で「若者交通・地域安全情報ネットワーク」を締結し、警察と大学・短大間の情報がすばやく共有できるようになりました。全体会の最後は学生会総会で締めくくりました。

全体会終了後の後半は、学科ごとに夏季休業中の各種実習やボランティアへの取り組み方、健康の保持増進の実践法、その他長期の休みの過ごし方について全員で確認する形で夏季オリエンテーションを終了いたしました。各自それぞれが自分の大切な時間を有意義に過ごし、全学生が9月からの授業再開に円滑に対応できることを祈りたいものです。



就職活動ど真ん中

就職指導課長 佐土原 敦

昨今の厳しい就職戦線を打破するには、積極的な就職活動しかありません。企業の場合はネットによる検索、8月にも行われた企業就職説明会への参加などです。保育園等の場合は、実習園での自主実習や行事参加、自宅近くの保育園等に履歴書を持参しての就職のお願いなどです。

上記の事を踏まえて実行した学生には、後半を迎える就職活動に多くの成果があると確信しています。夏休み前から一生懸命に就職活動してきた学生で、最近内定を頂いた学生が何名もいます。

就職を希望していても活動しない学生で、そのうちに学校がなんとかしてくれるという甘い考えでいると、就職できずに卒業していくことになりかねません。就職は自分の事です。自ら積極的に動かないと内定を得ることはできません。

就職活動に最も必要な事は、積極性と忍耐力、そして明るさです。これからも、前向きに活動し続けていただきたいと思います。

【平成25年度後援会役員名簿の訂正とお詫び】

「後援会だより (vol.21) の差込み資料の中の名簿において、学生氏名を間違ってお知らせしたことを、深くお詫び申し上げます。

学年氏名 (誤) 時任 宥美(保2) → (正) 時任 宥弥(保2)

保育フェスティバルを開催します

保育科 守川 美輪

10月26日(土) 10:00～15:30	本学交流センター(当日は秋の忍ヶ丘祭を開催中)
11月30日(土) 10:00～15:30	イオンモール宮崎イオンホール



現在、保育科及び専攻科福祉専攻各クラス保育フェスティバル委員と「ボランティア実習I」を履修している初等教育科や音楽科の学生を中心に準備を進めています。0・1歳児の部屋、2歳以上児の部屋に分かれて、「一緒にあそぼう」「親子ふれあいあそび」「キッズアドベンチャー」などのテーマで楽しい遊びを行います。音楽科学生による「コンサート」を含み、終日「製作コーナー」を設けています。参加の申し込みは不要です。学生の活躍をぜひご覧ください。小さなお子様がいらっしゃる方にご案内下さると幸いです。保育に関心のある高校生の参加も歓迎します。

学長所感

「五輪」に懸ける夢

学長 山下 忍

2013年の最高にして最大級のニュースは、やはり「20年東京五輪決定」であろうと思います。日本時間の8日5時20分の開催国発表時には、多くの日本人同様、私もまた言いようのない感動を覚えました。最終プレゼンテーションの模様を見つめていて、開催の決定を見るというのがどんなに大変なことか、よくよく分かりました。

「日本」の名を耳にし、目にした興奮は、少々時間では消えませんでした。夜が明け、いくらか冷静になった時、私にも大きな願いが湧き出してきました。それは、20年東京オリンピックは、同時開催のパラリンピックを含めて、これまでに例のないほどの、世の中を浄化し、元気にする催しであってほしいという思いでした。

どうしてこうなってしまったのか。日本でも世界のあちこちの国々でも、余りにも悲しい出来事が多過ぎます。一番の悲しみは、人の命が、まことに軽々しく扱われること。こうした今日の姿を、7年後の東京オリンピック・パラリンピックで粉々にして吹っ飛ばしたい。



世界最大のスポーツの祭典は、言ってみれば、世界最大の明るく元気を催します。その明るき元気で、日本の湿った空気や世界の澁んだ空気を吹き飛ばしたい。

今一つ願いがあります。今現在本学で学んでいる若者達は、7年後の開催の年はなおも20代。体も元気なら頭も最高に働く年齢です。この恵まれた条件が、オリンピックという最高の明るき、元気さの中で、この上ない充実度を生み、花開いていつてほしい。思えば、7年という歳月は、体を鍛え、頭を鍛えるに十分な年月です。

「20年東京五輪」に思いを馳せながら、今はしきりにこうした願いを抱き、夢を追っかけています。

学生の努力や輝き

学生の輝き

音楽科長 末平 浩康

毎年、音楽科学生の夏の努力や頑張りを、コンクールに焦点を置いて述べる人が多いのですが、今年もコンクールのみならず、実習やボランティアの現場で一所懸命頑張りました。

1年生は、7月24日(水)、25日(木)に清武地域子育て支援センターで行われた「わくわくコンサート」で変化に富んだプログラムで、0歳から小学生そしてお母さんたち約100名を楽しませてくれました。フルートやクラリネット演奏、リコーダーアンサンブルなどの他、津軽三味線などの演奏を、子どもたちが真剣に聴き入っていました。

2年生は、介護等体験実習や音楽療法臨床実習で高齢者施設や障害者支援施設等で、これまで経験したことのない体験を、はじめは緊張して戸惑いながらも日を重ねていくことに慣れ、貴重な体験をしました。専攻科生も2年生と一緒に施設の実習を余裕を持ってこなしておりました。吹奏楽部は、コンクールで、昨年の雪辱を果たし、銅賞から銀賞という成果を取め、第1回の

オープンキャンパスでは、ウエルカムコンサートを立派に演出してくれました。合唱団は、今年度から大学単独の部がなくなり、一般合唱団「ピゼロ・ドルチェ」とともに県大会で金賞を受賞し九州大会に出場します。酷暑の中での音楽科を中心とした音楽の夏も終わろうとしています。



宮崎県吹奏楽コンクール

正社員になるための努力

人間文化学科長 久保 良一

「今の若者は、体験学習が不足している」といわれていますが、果たしてそうでしょうか。学科生は、卒業後、激動するビジネス社会で正社員として活躍する人財でなければなりません。そのために、文化ビジネス・国語国文コースでは7月～8月の間に、各企業でインターンシップや図書館実習を行い、医療事務・医療秘書コースは「医療機関実習」を実施しました。実習先の企業、施設を訪問し、一生懸命職場体験している姿を見たり、担当者に話を聞いたりしてみると「頑張っています」「努力しています」という返事が返ってきました。一回りも二回りも成長している感じを受けました。また、職業観・勤労観に繋ぐ意識であれば、アルバイトも社会体験する有料インターンシップなのかも知れません。

また、2年生においては、4月から就職試験に挑戦しています。正社員として働くと言うことは並大抵な努力では成し遂げることができません。そのために、当然、本学で学んだ知識・技能を

ベースに置きながら、学外でも色々な場面で体験したり、コミュニケーションを通して良好な人間関係を構築する努力が正社員の条件でもあります。これらの「努力」が「即戦力」に繋がります。

学科生は、正社員になるために今年の猛暑の中、置かれた環境で努力しました。必ずや良い結果をもたらすことでしょう。



実習を通して理想の保育士に

保育科長 野坂 敬

実習先訪問に行くうれしさは、実習によって多くの成長をみせる姿に出会うことにあります。訪問時の実習園の方からの学生の説明をいただいた時の驚きは、嬉しさと同時に話の相手は別人ではと思うほどです。しかし、実際に、実習現場に足を運び、実際に活動している学生に眼を移すことで説明が本当であったと気が付きます。子どもたちの中で、あふれんばかりの笑顔と明るく元気な声で、子どもたちに寄り添いながら活動的している姿からは、講義や学内での諸活動では見られない「多くのことを学ぶ」という真剣な姿を感じさせてくれます。子どもが大好きだから「保育士」になりたいと懸命に実践で学ぶ姿勢、そして、子どもた

ちの輝く姿とともに輝く姿。多くの先輩たちに支えられて成長していく姿を見るのが楽しみです。



幼稚園教育実習前指導



教員をめざして輝く

初等教育科長 黒木 國泰

短大の大イチョウが黄葉づる季節となり、新学期が始まりました。この夏もまた初等教育科の学生たちは大きく成長しました。2年生は6月の教育実習に続き、7月末には社会福祉施設での介護等体験実習に臨みました。5日間にわたる実習では、様々な活動をととして利用者や職員の方々から多くを学びました。

難しいことだと実感している様子が伝わってきます。この経験が学生をさらに飛躍させてくれるものと確信します。

1年生たちは8月21日から23日まで、地域の公立小学校でのサマースクールに参加させていただきました。小学生の指導は1年生にとっては初めての体験でしたが、先生役となって児童とともに、宿題に挑戦します。どのように説明すれば分かってもらえるか、自分では分かっていることも児童に理解させるのは意外に



サマースクール

介護等体験

めざせ！ 音楽療法士

学長補佐、音楽科教授 山下 恵子

専攻科(音楽療法専攻)の学生は、音楽療法士取得を目指して日々勉強に励んでいます。日本音楽療法学会認定音楽療法士を取得する学生は、まず東京で開催される筆記試験に合格する必要があります。全国の養成校から集まる約300人の学生と共に受験します。その筆記試験に合格した後に、学生達は実技・面接試験に挑みます。在学生は、この目標に向かって日々努力をしています。この努力の結果は必ず「合格」となって返ってくると信じています。そして、合格を目指した努力は、修了後に障がいのある方々の支援現場で十分に生かされることと思います。

たくさん体験を積みながら、障がいのある方々から学ぶという姿勢を身につけてきているように思います。これからも学生の学びをサポートしていきたいと思っています。

さて、厳しい勉強の中で、障がいのある子どもたちと楽しそうに生き生きと接している学生の姿に出会います。互いに笑いあい、音楽で交流している姿は頼もしく思えます。学生たちは日々

